



デザイン経営のすゝめ ～デザインで変革するこれからの経営～



デザイン経営

平成30年に経済産業省及び特許庁より「産業競争力とデザインを考える研究会」での議論を踏まえた「デザイン経営」宣言が公表され、デザインを経営資源として活用し、企業の魅力や価値の創造、企業競争力の向上を実現する手法「デザイン経営」が注目されています。

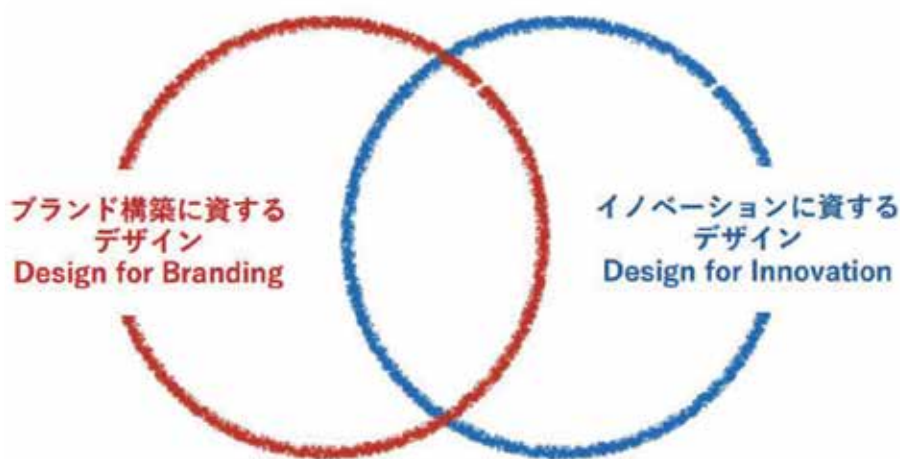
デザインの必要性

デザインとは、個々の製品の表層的な装飾や外見を好感度の高いものにするだけではなく、企業が大切にしていく価値、それを実現しようとする想いを表現する営みです。その想いが、一貫したメッセージとして伝わることにより、他社では代替できないブランド価値が生まれます。さらに、人々が気づかないニーズを掘り起こし、事業化・イノベーションを実現する営みでもあります。

沖縄においては、主力産業たる観光産業の成長や海外展開の取組など、グローバルな市場を見据えた商品開発や地域課題の解決に取り組むことが求められており、デザインを企業価値向上のための重要な経営資源とすることの効果が期待されています。

デザイン経営のすゝめ

沖縄総合事務局経済産業部では、デザイン経営の普及による県内事業者の競争力強化、生産性の向上及び地域経済の活性化を目的とした「デザイン経営のすゝめ」セミナーを2月18日に開催しました。本セミナーでは、事業者、デザイナー、支援機関、学生など、定員70名を超える方々が参加し、デザインと経営についての講演と



「デザイン経営」の効果

県内で活躍される方々のトークセッションが行われました。

第一部では、

ミテモ株式会社

社代表取締役

役の澤田氏より「デザインと経営」と題して、基調講演をいただきました。

澤田氏からは「デザインの役割や有用性、県内外の事例紹介、沖縄ならではのデザイン、なかまづくり、プラットフォームづくり」など、クリエイティブ・沖縄経済圏の創出による地域の活性化についてお話がありました。

第二部では、ミテモ株式会社代表取締役澤田氏のファシリテーションのもと、県内においてデザインに関わられている、琉球銀行メディア戦略室長伊禮真氏、株式会社DOKUTOKU460代表、アートディレクター 城間英樹氏、沖縄県立芸術大学デザイン専攻准教授高田浩樹氏にご登壇いただき、「デザインを活かす」をテーマとしてトークセッションが行われ、



基調講演「デザインと経営」

「行員のマインドセット、デザインによる業務効率化・生産性向上」、「稼ぐデザイン、地域に愛されるデザイン、次世代へのアドバース」、「デザイナーを輩出する組織としての役割、企業の想いをどう表現するか」など、各々の立場からデザインについてお話いただきました。

参加者の声

- デザイナーは斬新なアイデアだけでなく、マーケティング力や企画力などの技術も必要だと思った。
- 企業の理念をいかに伝えるかもデザインの一要環である。
- 事業者の伝えたい価値がユーザーが感じる価値と異なることを日頃から感じていました。考えが逆であったと気づかされました。
- いいものとは？ いいものを作っても売れないと意味が無い、顧客視点による経営の重要性を感じた。
- デザインについては普段から学ぶ機会がありますが、デザイナーとして人と繋がる方法を知る機会がなかった。
- デザイン経営を実践することのできるデザイナーの育成が大切。



トークセッションの様子



トークセッション
「デザインを活かす」

当局では、デザインによる県内事業者の競争力強化、生産性の向上及び地域経済の活性化を図るため、行政、民間事業者、デザイナーなどのネットワークづくりに向けて取り組んでいます。

経済産業部商務通商課

☎ 098-866-1731



農福連携推進ブロック セミナー「沖縄」を開催 しました

2月19日(水)に、那覇第2地方合同庁舎1号館大会議室において、「農福連携推進ブロックセミナー(沖縄)」を開催しました。

農福連携は、障害者の方々の農業分野での活躍を通じて、自身の生きがいを出し、社会参画を促すと同時に、農業分野にとっても、労働力の確保や荒廃農地の解消といった課題解決に資するものです。

本セミナーは、農林水産部の活性化に関する重要な取組として位置付けられている農福連携の推進を目的として、農林水産省及び沖縄総合事務局が共催したものです。セミナーでは、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会山城就労支援事業所



基調講演の様子

「さんさん山城」新免修氏、藤永実氏をお招きし、「多様な農福連携の形」京都からの実践報告」というテーマで、農福連携の多様性や可能性について、実際に農業、加工品製造及びカフェ

の経営に取り組んでいる実績を交えて分かりやすく説明していただきました。

また、県内の取組事例として、「社会福祉法人みやこ福祉会」理事長・伊志嶺博司氏から、農福連携による障害者の安定的な就労に向けた取組について野菜生産やレストラン開設の状況などを説明していただきました。

このほか、一般社団法人日本基金から、障害者が生産行程に携わった食品の表示規格である「フウフクJAS」について、農林水産省担当者から農福連携に対する支援制度などについて説明がありました。

当日は、障害者の就労支援に携わる事業者や農業者、関係機関などから約60名の参加があり、参加者からは、「今後の事業所の取組のひとつとして農福連携を検討したい」、「次回のセミナーにも是非参加したい。」などの声が寄せられました。

農林水産部農村振興課 農村活性化推進室

☎ 098-866-1652



取組事例発表の様子